

i-Construction

アイ・コンストラクション

～魅力ある建設現場の実現に向けて～

日本は少子高齢化社会を迎え、今後、明らかに現場の労働力が不足する^{※1}ことを考えると、建設現場の生産性向上は避けることのできない課題といえます。

国土交通省では、「情報通信技術 (ICT) の全面的な活用【ICT土工】」などの施策を導入することによって、建設生産システム全体^{※2}の生産性向上を図り、いわば「自動化施工」ともいえるi-Constructionを進め、魅力ある建設現場の実現を目指しています。

i-Constructionで建設現場が変わります!

建設現場における全てのプロセスにおいて従来人手が掛かっていた作業を、ドローンやICT建機などの活用により効率化できるよう、ICTに対応した15の新基準を導入しました。

また、建設現場におけるICTの普及に向け、ICT活用に必要な経費を計上した新たな積算基準も導入しました。

その他の取り組みとして、年度末に工期が集中するといった、月ごとの工事量の偏りを解消するため「施工時期

の平準化」なども行っており、計画的な施工を通じた効率化や安定的な休暇取得の実現などを目指しています。

i-Constructionが目指す建設現場

i-Constructionは、生産性を向上させることで企業の経営環境を改善し、建設現場で働く方々の賃金水準の向上を図るとともに、安定した休暇の取得や安全な建設現場を実現することを目指す、いわば建設現場の働き方革命でもあります。

この取り組みにより、建設現場で必要な技術の習得に要する時間が短縮されるとともに、危険の伴う作業や厳しい環境で行う作業も減少することから、建設現場における若者、女性や高齢者などの多様な人材の活躍が期待されます。

i-Constructionを通じて「給与が良く」、「十分な休暇が取得でき」、「将来に希望が持てる」新たな建設現場の実現を目指していきます。



※1 建設産業は今後10年間で高齢などのため、技能労働者約340万人のうち、約1/3の離職が予想されています。
 ※2 建設現場における、調査・測量、設計、施工、検査、維持管理・更新までの全てのプロセスのこと。